

学位被授与者氏名	周 星宇 (しゅう せいう)
論文題目	日本語複合動詞に関する日中比較研究
論文審査結果の要旨	<p>日本語複合動詞に関する最近の研究として森田良行 (1994)、松本曜 (1998)、小林英樹 (2001)、松田文子 (2004)、由本陽子 (2005) などが挙げられるが、中国語との比較対照についての先行研究は、望月圭子 (1990) の「日中両語の結果を表す複合動詞」、謝育新 (1998) の「日本語の複合動詞の後項部分と中国語の方向補語との対応関係について」などのような個別種類に関する論文があるものの、全面的な比較対照はまだ見られていない。本論の作者は中国語母語の日本語学習者の立場から 600 語以上に及んでいる常用複合動詞との比較を研究対象に取り組んでいて、初歩的な結論とは言え、幾つかの自分の考察による傾向性を纏めた。修論としてこの点は評価できると思われる。</p> <p>第二章の「動詞の生産性」についての観察、第三章の「後項動詞の特徴」に関する纏め、第四章の中国語で「主体・対象・状態・手段・方式・分野・結果などを補充して日本語の複合動詞を解釈する」などの論述は従来の研究に十分でない点を補足し、今後の研究と教育に一定の参考になると考えられる。また論文全体の構成、分析方法、術語の使用なども修士論文として適当であると判断される。</p> <p>しかし、複合動詞の含んでいる意味・文法要素が複雑で、それぞれに相当する中国語の表現も単一なものではない。この点についての考察分析は薄弱である。また、中国語の文法構造に対する分析にそれほど多くないが、誤りが見られる。</p> <p>平成 24 年 2 月 29 日に、北九州市立大学北方キャンパス 3 号館 320 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士 (中国言語文化) として十分な内容であると判定した。</p>